

緊急時の連絡先

学生・教職員	【記入欄】
消防署	学内からは 0-119 公衆電話からは 119

<寝屋川キャンパス>

防災センター(守衛室)	072-839-9358
学生課	072-839-9107
理工学部事務室	072-839-9116
外国語学部事務室	072-839-9195
経営学部事務室	072-839-9242
法学部事務室	072-839-9273
経済学部事務室	072-839-8120

<枚方キャンパス>

受付・防災センター	072-868-7000
枚方事務室	072-866-3100 072-800-1170

安否を必ず各学部事務室等に連絡して下さい。

学校法人 常翔学園

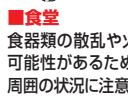
Step1. 学内で地震が起きたら

発生 緊急地震速報 身の安全を守る

■教室
机の下に身を伏せ、カバンなどで頭部を保護するなど、身の安全を確保しましょう。



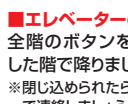
■図書館
本や本棚の落下に注意し、机の下に避難しましょう。



■食堂
食器類の散乱や火災発生の可能性があるため、身を守り周囲の状況に注意しましょう。



■建物のそば
ガラスやコンクリートの破片などが落下するため、建物のそばから離れましょう。



■エレベーターの中
全階のボタンを押し停止した階で降りましょう。
※閉じ込められたら非常ボタンで連絡しましょう。

Step2. 火災が起きたら

周囲の火の確認

■周囲の確認
近くで火が出ていないか確認しましょう。

■火を確認したら
「火事だ!」とまわりの人に叫んで知らせ、119番(消防署)へ連絡しましょう。
※薬品等を置いている研究室・倉庫が火災の場合は、どのような薬品があるかも伝えること。

■すばやく初期消火
廊下に備えられた消火器ですばやく消火しましょう。
※炎が天井に達し、火災が拡大したら迷わず逃げましょう。



災害時の避難の留意点

- ①教職員の指示や放送をしっかりと聞きましょう。
※出火階、その直上階から優先して避難します。
- ②ハンカチなどで口や鼻を覆って避難しましょう。
- ③避難時は、再び建物や教室に戻らない。
- ④エレベーターを使用しない。

※火が迫っている際の対処方法

濡れたハンカチなどで口や鼻をおおい、姿勢を低くして逃げましょう。一度逃げたら、再び建物等に戻ってはいけません。

Step3. 避難

安全を確認し落ち着いて避難

■教室・図書館
周囲の安全を確認し、教職員の指示や放送に従って、慌てず落ち着いて避難しましょう。
※危険階から順次避難しますが、建物倒壊の恐れなど安全が確保できない場合は外へ避難します。

■食堂
出口に人が殺到してパニックにならないよう、慌てず、散乱物に注意して外へ避難しましょう。
※外へ出る際は、落下物にも注意しましょう。

■建物のそば
落下物、散乱物に注意し、落ち着いて指定の避難場所へ避難しましょう。
※余震に注意し、ブロック塀や自動販売機等に近づかないようにしましょう。

■エレベーターの中
エレベーターから降り、教職員の指示や放送に従って、階段を使って避難しましょう。
※避難する際は、エレベーターを使用してはいけません。



※出血・骨折時の救護方法
出血時は傷口にガーゼや布を当てて強く圧迫し、骨折時は添え木等で骨折部分を固定して無理に動かさないようにしましょう。

Step4. 安否確認

家族・学校へ安否を連絡

■家族への安否確認
「災害用伝言ダイヤル」「災害用伝言板サービス」などを利用して安否を伝えましょう。(詳細、下段参照)
■学校での安否確認
屋外への避難終了後は、指示に基づき、教職員へ安否を報告しましょう。

帰宅 避難場所待機

■帰宅判断
自宅までの距離、公共交通機関の運行状況などにより、自宅へ帰宅できるかどうかを判断しましょう。

安否確認について(学生対象)

本学では災害が発生した際、学生の皆さんの安否確認を行います。ポータルサイトを通じて安否確認のメッセージを受信した場合は、連絡が可能になり次第速やかに回答してください。

緊急時パーソナルメモ

本人の連絡先	
氏名	年齢
住所	
電話番号	
生年月日	血液型
学部学科	学生番号
持病・アレルギー・常備薬等	
※持病のある方はお薬手帳を携帯しておきましょう。	
緊急時の連絡先	
家族・帰省先等の住所	
電話番号(- -)	
避難場所	
自宅近くの避難場所	
家族との待ち合わせ場所	
備考	

※油性のペンを使用して記入して下さい。

周辺の主な活断層地震

中央構造線断層帯(和泉山脈南縁)
M7.6~M7.7 発生確率:0.07%~14%
上町断層帯 M7.5 発生確率:2%~3%
有馬-高槻断層帯
M7.5 発生確率:ほぼ0%~0.03%
注) Mは地震の規模を表すマグニチュード、発生確率は今後30年以内に地震が発生する確率
出典) 文部科学省地震調査研究推進本部
算定基準日 2017年1月1日

上記以外にも知られていない活断層は数多く存在します。地震はいつどこで起きてもおかしくないと考えておきましょう。

日頃から心がけておくこと

いつ起きるか分からない災害、日頃からの備えが大切です。

●大規模地震時は周辺で火災が発生している可能性があり、危険です。
身の安全を確保し、周囲の状況に注意しましょう。

●災害発生から数日間生活できるようにしておきましょう。
飲料水、非常食、アウトドア用品など

●いざというときに役立つものを用意しておきましょう。
懐中電灯、携帯ラジオ、防寒具、ウェットティッシュなど

帰宅判断の目安

■自宅に帰宅するか、避難場所に残るかを判断
①避難場所から自宅まで10km以内
・帰宅することは可能と考えられますが、自分の体力と相談しましょう。
・災害時の歩行速度は約2.5km/時程度、10kmは4時間を要することになります。

②避難場所から自宅まで10km以上
帰宅困難に陥る可能性が高くなります。無理をせず避難場所に残りましょう。

■10kmの目安



避難時の対応について

- 避難時の流れ
- ①大規模災害発生後は、落ち着いて、避難できる体制をとりましょう。
 - ②大規模災害発生後は、館内放送が流れます。放送の指示に従って行動しましょう。
 - ③教職員は、建物内部の確認、救護場所の設置、避難誘導等に当たります。教職員の指示に従って、迅速な行動をとりましょう。

※災害の状況によっては、館内放送や教職員の指示等、避難誘導、救護活動が十分に行えない場合が考えられます。自分の身に危険が迫っている場合は、落ち着いて冷静になり、周囲の状況をよく確認し、安全な場所に避難しましょう。

強い地震が連続して起こる可能性もあるため、むやみに倒壊の可能性のある建物には近づかないようにしましょう。

避難後は Step4 で自分の安否を報告しましょう。

災害用伝言ダイヤル171

伝言の録音	伝言の再生
171にダイヤル 録音する場合 ①	171にダイヤル 再生する場合 ②

最後に被災地の方の電話番号を市外局番からダイヤル

災害用伝言板サービス

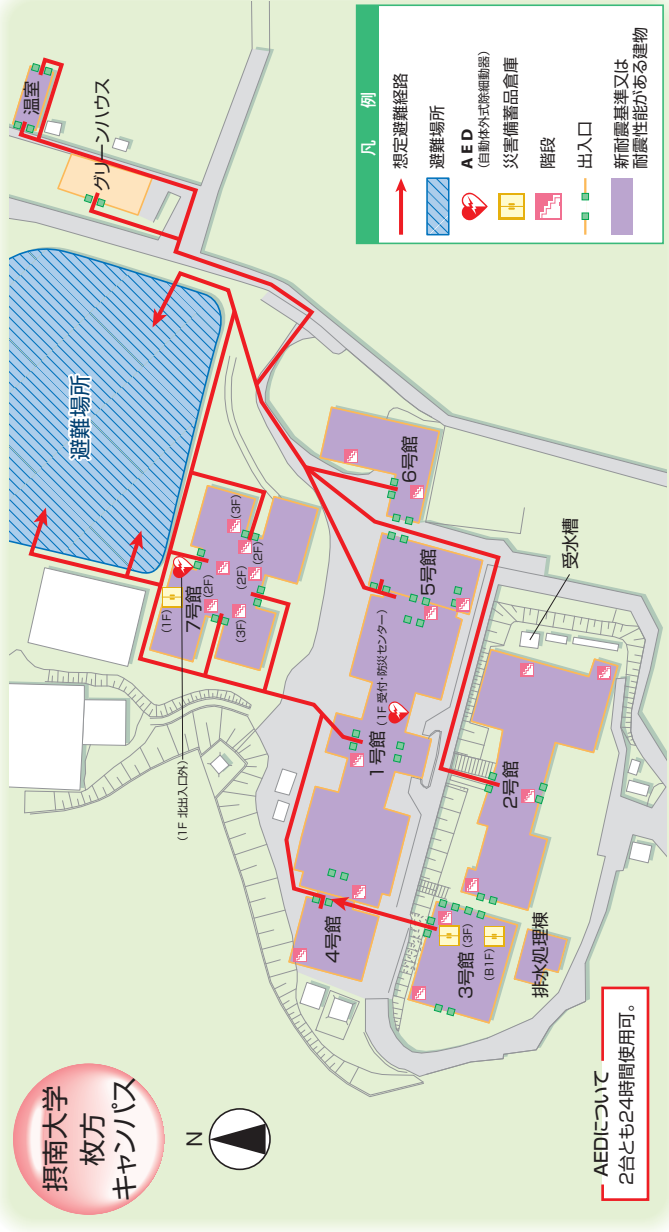
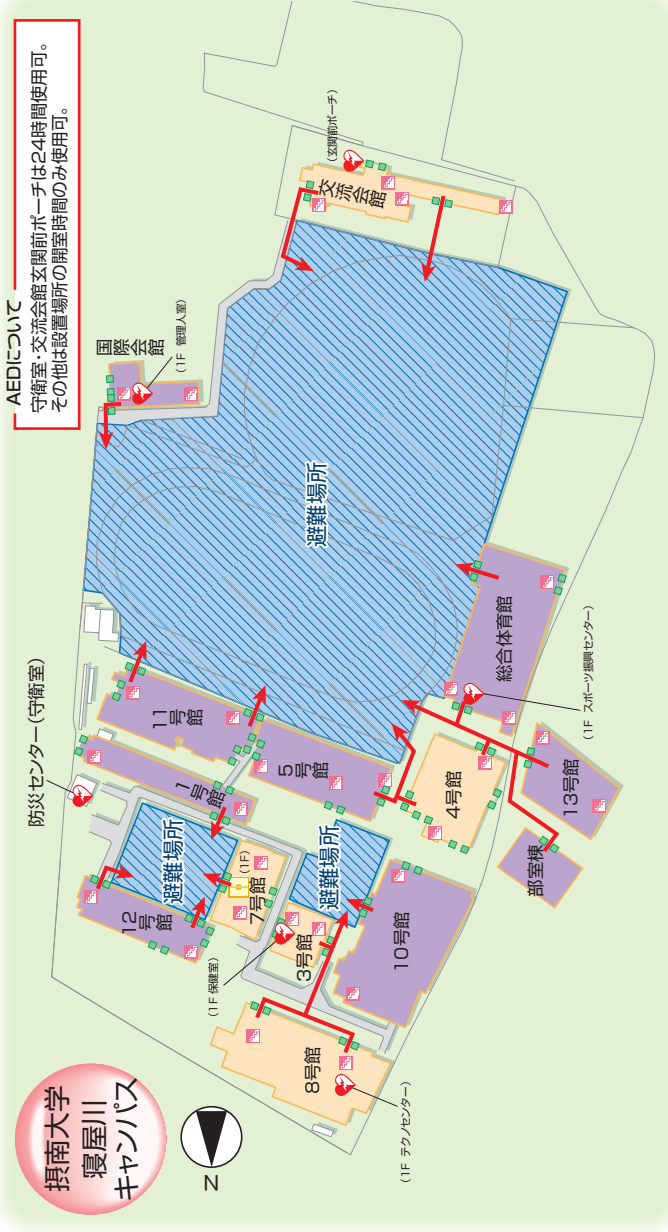
■携帯電話などから安否情報を登録
携帯電話・PHS等で、被災地の方が伝言を文字によって登録し、電話番号をもとに全国から伝言を確認できます。

災害用伝言板は、携帯電話からアクセス

NTT docomo	au KDDI
SoftBank モバイル	NTT web171
Y!mobile	

NTT web171はインターネット環境があれば、誰でも登録できます。上記の携帯会社以外を利用中の方や、携帯電話を持っていない方はパソコンからNTT web171を利用しましょう。
https://www.web171.jp

想定避難経路図



集中豪雨や洪水への対応

- 地下は、水が流れ込むため地上へ避難
- かけ崩れに気をつけ、安全な場所へ避難
- 避難勧告時は、戸締りをして速やかに避難

避難時の注意事項

- ①寝屋川キャンパスは淀川の浸水想定区域において浸水深が2~5mと予測されています。堤防が決壊して、浸水した場合は建物の3階以上の高い場所へ避難しましょう。
 - ②浸水している場所を歩く場合は、マンホールや側溝などに充分注意しましょう。
-

◆防災情報を活用しましょう。

- ・国土交通省：川の防災情報【携帯版】
<http://i.river.go.jp/>
- ・気象庁：防災気象情報【PC版】
<http://www.jma.go.jp/jma/menu/menuflash.html>
- ・大阪府：河川防災情報【PC版】
<http://www.osaka-kasen-portal.net/subbou/index.html>

特別警報と緊急地震速報

●特別警報

特別警報は豪雨や津波等、数十年に一度しかない非常に危険な状態の時に発表されます。避難指示・避難勧告に留意し、ただちに命を守るための行動をとりましょう。

●緊急地震速報

緊急地震速報は地震の強い揺れが来るまでの数秒から数十秒前にテレビやラジオ、携帯電話等から報知音が鳴ります。慌てず、まず、身の安全を守りましょう。

緊急地震速報システム

本学では、「緊急地震速報システム」が震度4以上で稼働します。緊急地震速報から強い揺れが来るまでの時間はごくわずかです。この間に、慌てずにStep1の行動がとれるように日頃から訓練しておきましょう。